

特集

矢板的

「テレワークのすゝめ」



地域ではたらく、
つながらる、
楽しむ。

JR 矢板駅から徒歩2分にある商業施設「ココマチ」の2階に、地方共創シェアオフィス『スロークワーク矢板』がオープンしました。

本市初となる本格的なシェアオフィスは、コロナ禍を契機とする働き方の変化を見据え、市サテライトオフィス等設置補助金の事業採択を受けた大手オフィス家具メーカーのグループ会社である(株)エフエム・スタッフが開設・運営するものです。

今後、施設の利用を通じた関係人口の創出・移住・定住など、地方創生に向けた方策の一つとして期待されています。

今号では、コロナ禍による働き方の変化や施設概要などについてご紹介します。

矢板市初、本格的シェアオフィス『スロークワーク矢板』オープン

❖コンソーシアム協定締結式



(左) (株) エフエム・スタッフ 荒井代表取締役社長 (右) 齋藤市長

▶ 3月18日(金)、本市と(株)エフエム・スタッフが「スロークワーク矢板」の運営推進を通じて、本市ならではの魅力的な働き方を提供し、移住・滞在の促進などによる地方への新しい人の流れを創出することを目的に協定を締結しました。

❖オープニングセレモニー



(左から) イトーキ (株) 箕田東日本支社長、(株) エフエム・スタッフ 荒井代表取締役社長、齋藤市長、市商工会 石井副会長・代田副会長

▶ 4月4日(月)、関係者が出席し、オープニングセレモニーが行われました。

齋藤市長は挨拶で「スロークワーク矢板の利用を通じ、アフターコロナの新時代を切り開く取り組みが次々と生まれることを期待している」と話されました。

コロナ禍を契機に変わる、働き方やライフスタイル

コロナ禍を契機にテレワークの普及が進み、東京圏で働く人にとっては都会の喧騒から離れ、自然豊かな地域で働くことが可能になる一方で、地方で働く人にとっては地元にとどまって働くことが可能になってきました。

このような働く場所にとらわれないワークスタイルの浸透により、地方移住の関心が高まるとともに、各地方自治体にはサテライトオフィスをはじめとするテレワーク環境の整備などによる柔軟な働き方への支援が求められています。



◆テレワークが“あたりまえ”になる未来。

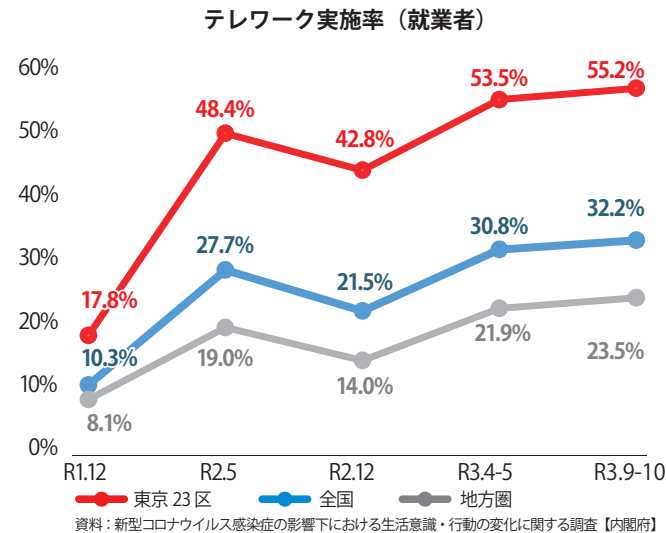
感染症対策の観点から、多くの企業でテレワークの導入が進んでいます。

内閣府の調査によると、全国的にテレワークの実施率が急増しており、なかでも東京23区は、令和3年9・10月時点で55.2%と全国平均の32.2%を大きく上回っています。



◆テレワーク

情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。
※ Tele（離れた所）と Work（働く）をあわせた造語です。

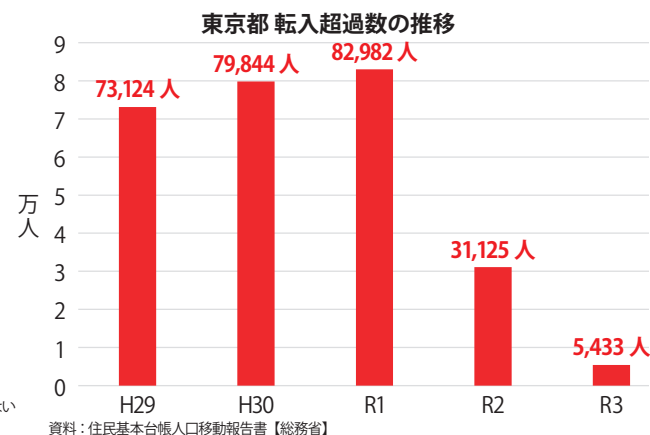
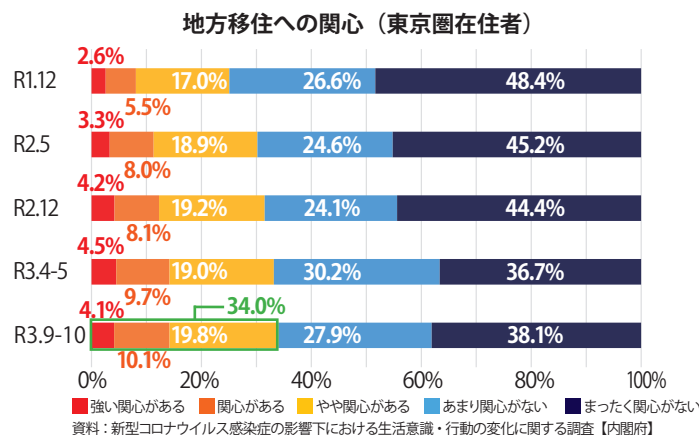


◆今、注目される移住。そして東京一極集中に変化が。

コロナ禍の今、移住への注目や東京一極集中に変化の兆しが見られます。

内閣府の調査によると、東京圏在住者の地方移住への関心は増加傾向で、令和3年9・10月時点で34%に上ります。

総務省の発表では、東京都に転入した人から転出した人を差し引いた「転入超過」は、令和3年が5,433人となり2年連続で最少を更新するなど、東京からの転出が増加し、転入が減少していることが分かります。



働く場、そして移住先に“ちょうどいい” YAITA

本市は、東京から新幹線で80分、車では高速道路を利用しても90分ほどのロケーションに位置し、豊かな自然に囲まれています。

東京近郊へも必要とときに出勤できる距離感のなかで、農的暮らしなど非日常的な環境を提供できる“ちょうどいい”バランスがとれた本市は、東京通勤はもちろん、東京近郊にお勤めのテレワーカーに選ばれる移住先としての可能性を有しています。



◆首都圏へのアクセス良好。

市内を縦断する東北自動車道や国道4号、JR宇都宮線も南北を縦貫し、充実した交通網が整っています。



◆スローライフを満喫。

豊かな自然とコンパクトな街が共存している本市では、ゆったりと暮らしながらも、過不足のない生活を送ることができます。



◆移住・定住に向けた取り組みを推進中！

本市では、各種移住定住支援制度を設けるなど、人口減少対策の一つとしてUIターンによる移住・定住への取り組みを推進しています。



◆移住支援金／総合政策課

東京圏在住もしくは23区内にお勤めの方が、本市に移住し要件を満たす際に、世帯の場合で100万円、単身の場合でも60万円が支給されます。
県内への就職、起業だけではなく、テレワークも該当します。
令和4年度からは、18歳未満の子ども1人あたり30万円の追加支給もあります。



詳しくはこちら

◆「暮らし」のびのび定住促進補助金／都市整備課

45歳以下の方が、市内にマイホームを建てると、要件に応じて100万円以上の補助が受けられる場合があります。
さらに、移住支援金を受給して1年以内に住宅を取得した場合は100万円の追加支給もあります。



詳しくはこちら

◆空き家バンク制度／都市整備課

本市では空き家、空き地に関する情報をホームページで公開しています。
売買や賃借の仲介のお手伝いを行っています。



詳しくはこちら

◆空き家活用支援補助金／都市整備課

空き家バンク制度を活用して市内の空き家を取得し、転入する場合、改修費用の1/2を補助します。
【限度額】
用途地域内は50万円、その他地域は30万円となります。



詳しくはこちら

地方への関心が高まる今、YAITA に人を呼び込むチャンス！

テレワークの普及により、働き方や居住地に対する考え方が大きく変化し、地方回帰への関心が高まる今を好機と捉える本市は、新たな人の流れの創出に向けて、地方創生テレワークの推進に取り組んでいます。

その取り組みの一環としてこの度、国の交付金を活用した本市初の本格的なシェアオフィスがオープンしました。

◆地方創生テレワーク

テレワークにより、「転職なき移住」・「企業の機能移転」など、「地方への新たな人の流れ」を創出し、地方の活性化を目指すものとして国が提唱し、地方を支援するものです。



シェアオフィスの概要は、次ページで紹介！
詳しくは、お問い合わせください！
総合政策課
☎ 43-1112





地域の皆さんもぜひ、ご利用ください

多様な働き方の実現に！ YAITA の New work space を紹介します

この施設は、会議室を完備するなど集中して仕事ができる「オフィススペース」と、最大20人収容のイベントスペースとしても利用できる「ラウンジスペース」があるのが特徴です。高速Wi-Fiが利用できる通信環境やハイグレードなオフィス家具など、最新設備が完備された会員制のシェアオフィスです。働くだけでなく、さまざまな企業やテレワークをする社員、起業家などのほか、地域の皆さんが気軽に集い、交流の輪を広げる拠点としてぜひご利用ください。



全席ハイクオリティチェア



たかはら山を望む絶景♪

❖オフィス利用者に INTERVIEW



手塚 将之さん

このオフィスの特徴は、大きい窓があり景色が良く開放感があることです。また、オフィス内には観葉植物が飾られていて、リラックスできるので集中して仕事することができます。矢板市の地域おこし協力隊員でもある私は、自身の仕事や地域おこし協力隊の活動などをこのオフィスを起点に取り組んでいきたいと考えています。



エリア. 1

Lounge space

オープンなワーキングエリア。イベントでの交流などコミュニティ活動としての利用にGOOD！

ビジネスマッチングにも最適♪



ドリンクは無料♡



高速Wi-Fiで通信環境☆



20人収容可能。セミナーやイベントなどにご利用できます。



ご利用の際は、まずこちらのカウンターにお越しください。

Office space

集中して仕事ができるオフィスエリア。2～6人で使用できる個室のほか、web会議や集中できるモニターブースを完備。多様な仕事モードを選べます！

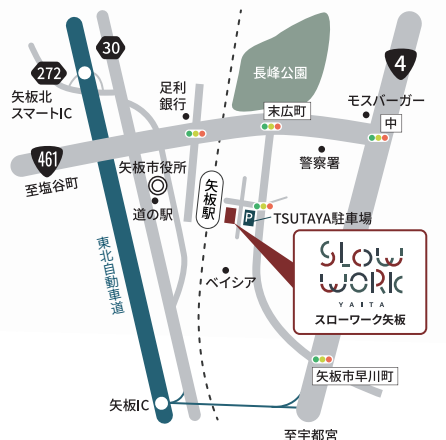
エリア. 2



大型モニタ

デュアルモニタ

アクセスマップ



JR矢板駅東口そば、TSUTAYA隣、ココマチの2階 駐車場無料 / TSUTAYA駐車場が利用可 東北道矢板ICから車で約20分

本施設利用料金 (税込み)

法人	月額	44,000円	2名まで
	個人	月額	22,000円
	日額	3,300円	1日最大利用料
個人	時間	550円	
	15分	138円	
会議室利用 (別途料金)	ROOM1 定員2名	1,100円	1室1時間 要予約
	ROOM2 定員2名	1,100円	
	ROOM3 定員4名	2,200円	
	ROOM4 定員6名	3,300円	

本施設のご利用：事前に会員登録が必要となります。Room1～4：事前にオンラインでご予約ください。感染予防対策：安心してご利用頂けるよう、万全の対策を整えています。

❖地域共創型シェアオフィス スロークワーク矢板

住所：矢板市末広町 19-4 ココマチ 2階
 電話番号：0287-43-9900
 営業時間：9：00～18：00 (土日祝日休館)
 運営：(株) エフエム・スタッフ



やいた de テレワーク

